

# 新聞を読み、さまざまな場面で生かすことによる言語活動の充実を目指して

日南市立細田中学校  
教諭 小林 直子

## I はじめに

NIEは、世界共通の活動であり、今なお広がっている活動である。また、閲読習慣が身に付くことでOEC Dの調査で「読解力向上に新聞は有効」と出ている。本校は、日南市の南部自然豊かな地にあり、素直で温厚な生徒が多い。NIE実践校として平成27年度より2カ年の指定を受け、さらに本年度、独自認定校として活動してきた。しかし、新聞を購読していない家庭が多く、自分の力で行くことができる距離に図書館がないなど、なかなか新聞を読む環境をつくることのできない環境である。したがって、新聞に触れる機会をつくり、新聞を読んだことを生かすことで、言語活動を活性化し、学力の向上にもつなげていきたい。

## II 実践の仮説

NIEの活動をさまざまな表現活動に生かすことで、言語活動を充実させることができるだろう。

## III 実践の内容

- 1 全校生徒、全職員による「NIEタイム」の取り組み
- 2 新聞の記事内容を生かした言語活動の充実
- 3 情報の共有の工夫

## IV 実践の実際

- 1 全校生徒、全職員による「NIEタイム」の取り組み

### (1) 時間の設定

校時程を工夫して、金曜日を朝自習時間や清掃時間をカットし、授業終了後、集会・生徒会活動を行う時間を30分設けた。そこで、年間10回「NIEタイム」として、全校生徒、全職員でNIE活動に取り組んだ。

### (2) 年間計画

1年生はNIE活動が初めてであることを踏まえ、2、3年生はこれまでのNIE活動の経験を生かし、下記の通り、年間計画をおおまかに立てて実施してきた。

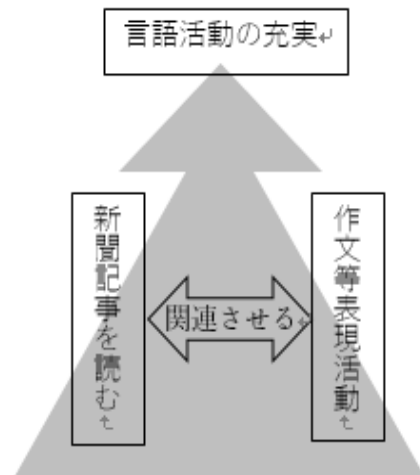
	第1学年	第2学年	第3学年
第1回5/11 (金)	記事を読んで5W1Hを意識して要約する。	「新聞感想文」とはどのようなものかを把握し、新聞記事の選び方について説明する。 ※ 記事は、これまでの自分の考えに刺激を与えられたもの、心を揺さぶられたもの ジャンル〜平和 医療・健康 教育 人権 文化 地域 科学 スポーツ 芸能 衣食住 経済 生と死 少子化 高齢化 情報 政治 国際社会 環境	
第2回5/18 (金)	記事を読んで要約する。	意見文が書けそうな記事を持ち寄る。どのような意見文が書けそうか意見交流をし、次回に向けて記事を選ぶ。(〇月〇日付 〇〇新聞を明確に)	
第3回6/15 (金)	要約したものについて感想について意見交流をする。	NIEタイム①について意見文(400字程度)を書き、「若い目」に投稿する。	
第4回7/10 (火)	記事を選び、意見文を書く。(新聞感想文への応募)		
第5回9/7 (金)	「宿題は必要か」について自分の立場と根拠について意見交換をする。	一人一人のテーマに沿った記事を選び、比較しながら自分の考えをまとめる。	
第6回10/12 (金)	「14歳の君へ」の記事を読み	感想をまとめる。	
第7回12/11 (火)	「水道の民営化の賛否」について記事を読む。	「AI」に関する複数の記事を読む。	
第8回1/11 (金)	「水道の民営化の賛否」についてそれぞれの立場の理由を考え、自分の立場を明確にする。	「AI」に関する複数の記事を参考にメリット、デメリットについて意見交換をし、自分の考えをまとめる。	
第9回2/8 (金)	NIEタイム⑧について意見文をまとめ、意見交流をする。よくまとめられているものについては、「若い目」に投稿する。	NIEタイム⑧について意見文をまとめ、スピーチをする。	

第10回3/1 (金)	新聞を一部ずつ手にし、どのようなテーマが気になったかについて意見交流をする。	必要に応じて新聞を見て「今、気になるニュース」について自分の考えをまとめる。
----------------	--	--

2 新聞の記事内容を生かした言語活動の充実

※ 図1

「NIEタイム」の活動を作文等の表現に生かす機会をもつようにした。また、作文等で考えたことを生かし、テーマをもってさらに新聞記事を読んでいく機会をもった。その際、右記の図1のようなイメージで進めた。



(1) 新聞感想文コンクールへの全校生徒の応募

「NIEタイム」でオリエンテーションを行い、全校生徒が宮崎日日新聞の新聞感想文コンクールに応募した。本年度、学校賞を受賞することができた。

(2) 新聞記事を生かした読書感想文

夏休みの作文の課題である読書感想文に新聞記事を用いるようアドバイスしたり、読書感想文で扱ったテーマについて新聞記事を見つけたりする活動を通して自分の考えをより深めようとすることができた。読書感想文は、地区の審査に出品し、学校行事である文化発表会で発表した。

【 関連させた例 】

- 「裁判長！ここは懲役4年でどうすか」(文春文庫、作：北尾トロ)と宮崎日日新聞6月15日「袴田事件」の記事との関連

(3) 新聞記事を生かしたビブリオバトル(書評合戦)

本校では、学校図書館司書の方に協力をもらって、夏休みに読んだ本を紹介し合い、「次に読みたい」と思わせる本(チャンプ本)を決定するビブリオバトルを全校生徒で行った。その際、新聞記事に関連した本を選び、記事に関連した話を盛り込みながら本を紹介した生徒がいた。本校でチャンプ本に選ばれた生徒は学校代表として市の「中学生ビブリオバトル」においてもチャンプ本に選ばれた。

① 本校におけるビブリオバトル

- ア 日時 平成30年10月12日(金) 4校時
- イ 内容

国語科の授業で学級ごとに全員によるビブリオバトル(予選)を行い、各学年2名を選出し、計6名によるビブリオバトルを行う。(本選)本選で、チャンプ本に選ばれた1名が市で行われる「中学生ビブリオバトル」へ出場する。

② 市のビブリオバトル

図書館による企画の一環として「中学生ビブリオバトル」が開催された。イベント内容は、他にも読書活動推進校による発表、リサイクル本市や絵本づくり等のワークショップなどが行われた。

- ア 日時 平成30年11月17日(土) 9:30~12:10

写真 ビブリオバトルの様子

- イ 場所 まなびピア

- ウ 対象 市内中学校10校の代表者各1名

- エ 内容

- (ア) 進行 市内学校司書(4名)

- (イ) 流れ

- 当日抽選で前半5名、後半5名で行われる。
- 5分の制限時間内で本の魅力を紹介し、2分間の質疑応答が行われる。
- 会場にいる人による投票でチャンプ本を決定する。



(4) 新聞記事を生かした生徒会活動

「NIEタイム」第7回で、2、3年生は、AI(人工知能)というテーマをもって複数の新聞記事を見ていくことで考えを深めた。常に自分のテーマをもって生活することで、市の「子ども議会」で直接市長に質問をすることができた。崎田市長は誠実に回答してくださった。また、その経験を生かし、市の「新春子どもの声を聴く会」で学校代表としてAIに関する発表を行った。発表者は最優秀賞を受賞すること

ができた。

① AIに関する「NIEタイム」

第7回から第9回「NIEタイム」の2、3年生においてAIに関する記事を読み、メリット・デメリットを考え、自分の考えをまとめることを行った。



写真 第7回「NIEタイム」の様子(左より1年生、2年生、3年生)

② 「NIEタイム」で扱ったAIに関する記事(以下は全て読売新聞記事)

- 平成30年10月3日(水)「特養にロボ 職員30人分」
- 平成30年11月2日(金)「自分の技能AIが判定」
- 平成30年11月3日(土)「英検採点AI導入」
- 平成30年11月5日(月)「犯罪発生AI予測」
- 平成30年11月6日(火)「読解力AIに負けないカギ」
- 平成30年11月11日(日)「『AIは万能』誇大広告」
- 平成30年11月27日(火)「AI活用公平重視」

③ 市の「子ども議会」

- ア 日時 平成30年12月25日(火) 9:00~12:00
- イ 場所 小村記念館
- ウ 内容

市内中学校10校の生徒会の代表が集まり、子ども議員となって市議会を体験した。参加者が所属校に関係なくグループをつくり、市の発展について考え、市長をはじめとする実際の市議会へ質問を行い、回答した。そこで、本校の代表の1人が市長に直接、市のAIに対する取り組みや考え方を質問した。このときの宮崎日日新聞の記事が右記である。

④ 市の「新春子どもの声を聴く会」

- ア 日時 平成31年1月24日(木) 12:30~15:30
- イ 場所 小村記念館
- ウ 内容

市内の小中学校24校の代表1名による意見発表を1人3分以内で行う。小学校より1名、中学校より1名最優秀賞が決まる。

エ 新聞記事に関連した意見発表の主な内容

読売新聞平成30年10月3日(水)「特養にロボ 職員30人分」の記事で、AIを用いることで特別養護老人の職員30人分の働きを見せたというメリットと使いこなす難しさや費用がかかること、そして進化・普及させる時間がかかること等のデメリットもあるということを挙げ、「AIに支配されない愛のある人間力を」と発表した。

写真 昨年12月29日宮日日新聞記事



写真 新春子どもの声を聴く会の発表の様子

(5) 「若い目」への投稿

昨年度に引き続き、国語科の授業のまとめを宮崎日日新聞「若い目」に投稿し、掲載していただいた。

【掲載例】

- 平成30年5月26日(土)「感じる風闘志に」というタイトルで国語科の授業で行った和歌の批評

## 文を基にした内容

### (6) 「14歳への君へ」への投稿

毎月の連載宮崎日日新聞の「14歳の君へ」を学年で取り組み投稿し、多くの生徒の感想を掲載していただいた。30年5月より31年2月までのべ22名の生徒の感想を掲載していただいた。

### (7) 作文等の内容を踏まえた記事探し

2、3年生において、作文のテーマになった内容の記事を探し、NIEタイム⑤で比較して考えるようにした。

#### 【 実際のテーマ例 】

- 「夜間学校」の読書感想文と生涯学習
- 「このあとどうしちやお」の読書感想文と高齢者問題

### (8) AIをテーマにした司書の方のブックトーク

第7回の「NIEタイム」に合わせて、司書の方にAIをテーマにしたブックトークを朝の会で行っていただいた。AIに関する多様な考え方を聞くことができた。



写真 司書の方によるブックトークの様子

## 3 情報の共有の工夫

### (1) 新聞の常時設置

教室の前の廊下に常時新聞を置くようにした。

### (2) 「NIEタイム」に関連した記事の掲示

「NIEタイム」で扱う新聞記事が複数だったこともあり、廊下に掲示して見るようにした。

### (3) 掲載記事の掲示・掲載

「14歳の君へ」を始め、本校に関連した記事を廊下への掲示やホームページ、朝の会や帰りの会等で話題にすることで生徒や保護者への情報の提供を行った。



写真 常時設置の新聞を見て話す生徒



写真 NIEタイムに関連した記事の掲示



写真 「14歳の君へ」の掲示

## V 成果と課題

### 1 成果

- 新聞記事を生かして作文等の表現活動を行い、表現内容の充実を図ることで、学校内外で良い評価を受ける機会を得ることができた。
- 新聞記事と読書活動をつなげ、言語活動の充実を図ろうとする子どもの姿が見られた。
- 新聞を囲んだ談話が学年の枠を超えて活発になった。

### 2 課題

- 新聞を読み、意見を交流することができるが、より深く考え、自分の考えを再構築できるように活動を工夫したい。
- 今年度、新聞に全校生徒が掲載される機会を持ちたいと考えていたが、達成できなかった。